

いわきおてんとSUNプロジェクト

市民発。地域の未来づくりプロジェクトのご紹介
ーオーガニックコットン、自然エネルギー、スタディツアーー



いわき おてんとSUN プロジェクト

2013年11月

「いわきおてんとSUNプロジェクト」3つの復興まちづくりを始動！



オーガニックコットン

フクシマの新しい産業の創出

福島、いわきの農業の復興・再生に向けて、今春より、市内15箇所、1.5haでコットンの有機栽培が始まりました。初めてのコットン栽培に、地元農家やNPOなどが汗を流しています。多くのボランティアが首都圏から訪れ、栽培の支援を行っています。

このコットンを、今年11月に収穫し、来年6月にはTシャツなどの製品化を行う予定です。オーガニックコットンが、福島の新たな産業になることを目標としています。



コミュニティ電力

市民が主役の自然エネルギー活用

地域再生には、市民自らが自然エネルギーを活用し、新たないわきの産業へと発展させることが必要と考えます。現在、いわき市でも自然エネルギー導入の動きが見られますが、その多くは外部資本によるものです。

自然エネルギーの宝庫と言われるいわきにて、地域に希望の明りを燈す「いわきコミュニティ電力」事業の実現に向けて、体制やしくみを構築していきます。まずは、30kWの太陽光発電事業に着手する予定で、今後さらに取り組みを拡大させていきます。



スタディーツアー

被災地・いわきから学び、考える

被災現場において被災者自身から発せられる言葉。そこから震災の教訓を学び、自分たちができることを見出していく。被災地のいまの姿を目に焼き付け、震災を機に生まれた新たな試みを体感する。被災地・いわきから学び、考えるツアーをスタートしました。

被災地支援に関心がある企業や団体に訪問いただき、津波被災地の視察、語り部の講話、コットンなど復興への新しい試みを体験するプログラムを提供していきます。



協力団体

木紅木. avanti 絆ジャパン

リボーン REBORN Eco Tourism Network
エコツーリズム・ネットワーク



助成団体



いわき おてんとSUN プロジェクト

1. ふくしまオーガニックコットン

在来種茶綿の 有機栽培

・1期(2012年度、2012年9月
～2013年3月):15か所、1.5ha
で綿花栽培。1500人のボラン
ティア参加。4000個のベイブ製
作・販売。栽培、綿繰実施。栽
培マニュアル整備。

・2期(2013年度):37か所、
3haで綿花栽培。既に3000人
超のボランティア参加。市内11
校で栽培学習。5000個のベイ
ブ、雑貨販売(目標)、Tシャツ
3000枚販売(目標)。



栽培から製品作りの流れ

7月、8月、9月



6月～
草取り開始
援農ツアーなど



5月種まき



2012年春スタート

5月末
種まきボランティアツアー開催

5月17日
土壌検査実施

夏

秋

9月下旬～
収穫開始
綿摘み体験ツアーなど、収穫体験
コットンベイズ作り



2013年1月～
綿繰り・紡績工場への出荷

冬



2013年2月～6月
紡績・ニットイング・縫製



つながりによって支えられる栽培

2012年度はコットン栽培に首都圏を中心にのべ1,600人以上の方が参加

- ・絆ジャパン ・グリーンバード ・WE-21ジャパン ・リボーン
- ・JKSK 【アジアと地元の大学生交流(7/21,21)25人】
- ・早稲田大学復興人材塾(9/19,20)28人

■企業ボランティア:ブリヂストン(平成25年1月末～定期実施) ソニー 中村屋
ルミネクリエイティブ 東京スター銀行 ほか

■企業視察:味の素冷凍食品、サイボウズ、ブリヂストン、クボタ...



商品化① ふくしま オーガニックコットンベイブ



キャップちゃん...地域の女性たちや避難して
きた女性たちの手仕事として
ねんねちゃん...障がい者施設利用者の仕事として

綿の種がついた人形。
種をまいて育て、収穫された綿をいわきに送り届けてください。
モノづくりの仲間に加わってください！...のメッセージを添えて。
クリスマスシーズン～累計で4,000個以上を販売



パッケージ中面にコットンの
育て方が記載されています

フクシマオーガニックコットンベイブ
[ねんね]、[キャップ]
販売価格：各840円(税込)

写真左 品番：499150
フクシマオーガニックコットンベイブ [ねんね]
写真右 品番：499151
フクシマオーガニックコットンベイブ [キャップ]

商品化② ふくしま オーガニックコットンTシャツ

- ・いわきを中心に国産綿5%を入れたオーガニックコットンTシャツ。(有機で国産の綿を入れた商品は非常に希少性が高い。)
- ・5月下旬に商品が完成。
- ・OEMや、日本だけでなく世界にアピールするために、日本のアニメーションや著名アーティストとの連携を図ったTシャツを販売する。
- ・今後は、てぬぐい、タオルハンカチなど制作予定



畑でのTシャツ完成お披露目会



コットンベイブT



ナルトコラボT



企業コラボT

: 自動車会社FIAT様

2013年度販売目標3千枚。10月末現在2千枚を販売達成

2. いわきコミュニティ電力（まずは太陽光から）

- ・現在、いわき市内でも自然エネルギー導入の動きが見られるが、その多くは外部資本、多くが大企業によるもの。
- ・いわきコミュニティ電力では、自然エネルギーの宝庫と言われるいわきにて、市民が主体となり、地域再生に資する事業を行う。
- ・まずは、**30kWの太陽光発電施設が完成(4/25～売電開始。5/25お披露目式)**。今後さらに取り組みを拡大させる。市民出資型も検討中。
- ・最初の太陽光発電事業では、市民や都市部のボランティアが、敷地の開墾・整地から太陽光パネル設置までの作業に関わり、太陽光発電システムに関する学びの場となるように努めた。

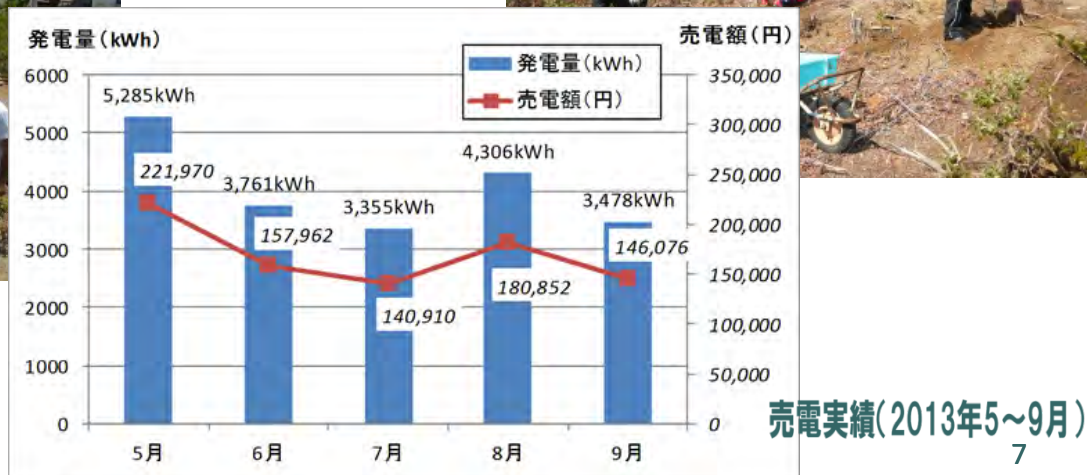


【事業実施地】

住所：福島県いわき市小川町柴原

面積：約2,310㎡（約700坪）

用途地域：無指定地域 地目 山林



地域の人たちと共に



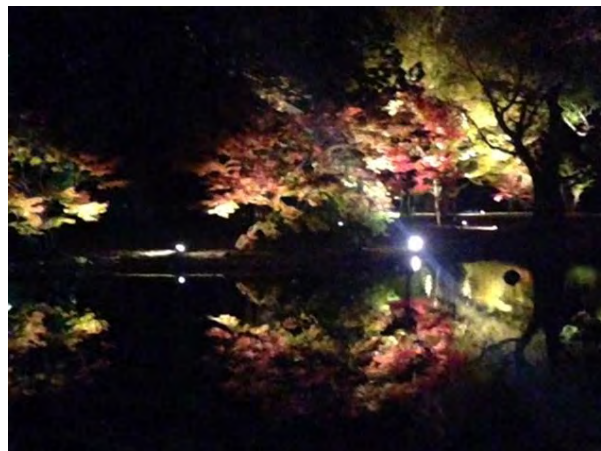
映画『シェーナウの想い』上映会開催

太陽光発電によるイベント



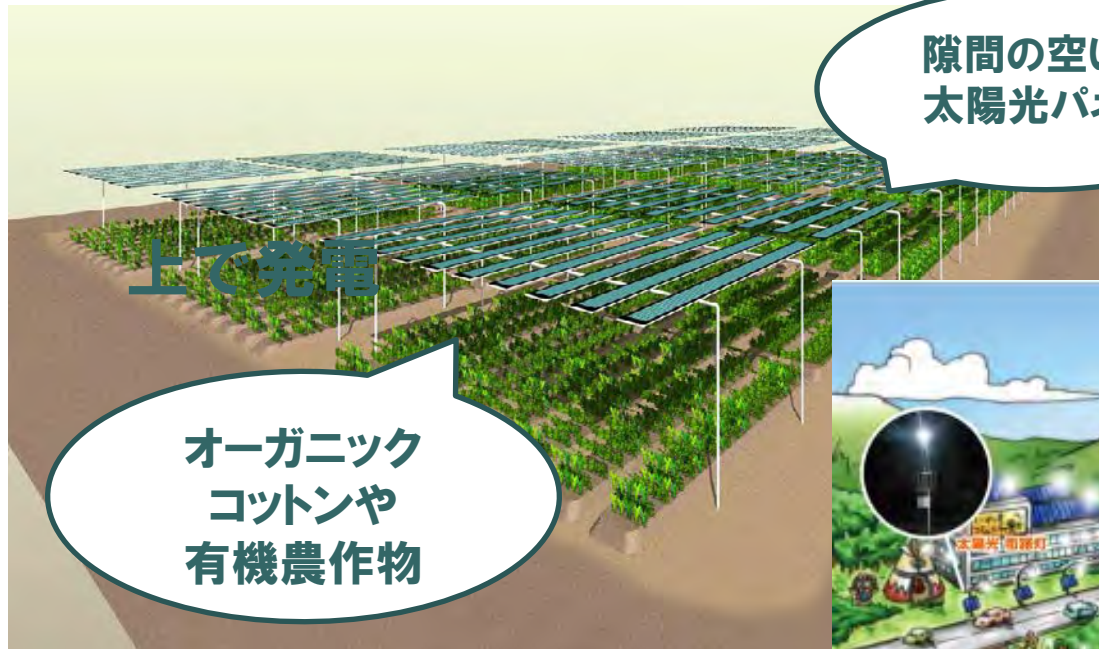
仮設住宅入居者と
手づくりパネルづくり

移動電源車による自然エ
ネルギーのみを使って行
うコンサート、イベント



2013年度：おてんとSUNシェア

オーガニックコットンと自然エネルギーの二毛作をいわきの新しい産業として確立させる実践、市民出資に取り組み開始



3. 被災地復興スタディツアー

- ・被災現場において被災者自身から発せられる言葉。そこから震災の教訓を学び、いま自分たちができることを見出していく。被災地のいまの姿を目に焼き付け、震災を機に生まれた新たな試みを体感する。被災地・いわきから学び、考えるツアーをスタート。
- ・被災地支援に関心がある企業や団体に訪問いただき、津波被災地の視察、語り部の講話、コットンなど復興への新しい試みを体験するプログラムを提供している。

津波被災地
津波被災施設
仮設商店街



語り部の
講話・交
流



・オーガニックコットン体験
・コミュニティ電力体験



いわきの復興
を考えるワー
クショップ



「いわき・おてんとSUNプロジェクト」の将来像

